

テーマ展「^{りょう おもて}霊の面 ^{おんりょう}怨霊・^{ぼうれい}亡霊・^{しんれい}神霊－井伊家伝来能面から－」展示作品リスト

番号	名称	作者	時代	備考
霊の面の特徴				
1	^{はちじょうぼんかてんしょ} 八帖本花伝書 卷五		江戸時代 寛文5年（1665）刊	室町時代後期成立とされる能の伝書、霊の面の使用に関する記載がある
2	^{のうめん しんかく} 能面 真角	^{ほかんみつなお} 甫閑満猶	江戸時代 享保12年（1727）	
参考	^{のうめん かんたんおとこ} 能面 邯鄲男		江戸時代	男の面
恨みを抱く女の怨霊				
3	^{のうめん ていがん} 能面 泥眼	^{ぜかんよしみつ} 是閑吉満	桃山時代	
4	^{のうめん はしひめ} 能面 橋姫	^{ちゆうまんし} 仲満志	江戸時代	
5	^{のうめん なまなり} 能面 生成	^{げんきゆうみつしげ} 元休満茂	江戸時代	
6	^{のうめん はんにゃ} 能面 般若	^{いせきいしげ} 井関家重	江戸時代	
7	^{のうめん じゃ} 能面 蛇	^{ほかんみつなお} 甫閑満猶	江戸時代 享保18年（1733）	
8	^{のうめん あだちおんな} 能面 安達女	^{せいじゆん} 誓順	江戸時代	
9	^{のうしょうぞく しるじうろこもんようすりはく} 能装束 白地鱗文様摺箔		大正～昭和時代	鬼女の役で使用する装束
10	^{のうしょうぞく くるじまるもんづくしもんようすりはく} 能装束 黒地丸紋尽し文様縫箔		大正～昭和時代	鬼女の役で使用する装束
11	^{のうしょうぞく どうはくじうろこもんようかざらおび} 能装束 胴箔地鱗文様鬘帯		江戸時代	鬼女の役で使用する装束
12	^{のうこどうぐ あかじぼたんからくさもんようちゆうけい} 能小道具 赤地牡丹唐草図中啓		江戸時代	鬼女の役で使用する扇
13	^{のうこどうぐ うちづえ} 能小道具 打杖		昭和時代	鬼女の役で使用する杖
さまよう亡霊				
14	^{のうめん やせおとこ} 能面 瘦男	^{ちよううんやすよし} 長雲庸吉	江戸時代	
15	^{のうめん やせおんな} 能面 瘦女		江戸時代	
16	^{のうめん かわず} 能面 蛙	^{なかむらなおひこ} 中村直彦	大正～昭和時代初期	
17	^{のうめん にしきぎ おとこ} 能面 錦木男		江戸時代	
18	^{のうこどうぐ しるじかすみにくもんようずちゆうけい} 能小道具 白地震に雲図中啓		大正～昭和時代	瘦男を使う役で使用する扇
19	^{のうこどうぐ しるじかすみにはちようずちゆうけい} 能小道具 白地震に叭々鳥図中啓		大正～昭和時代	瘦男を使う演目〈善知鳥〉専用の扇
20	^{のうこどうぐ はねこしみの} 能小道具 羽腰蓑		大正14年（1925）	瘦男を使う演目〈善知鳥〉専用の腰蓑
舞を舞う神霊と武将の亡霊				
21	^{のうめん みかづき} 能面 三日月	^{げんきゆうみつなが} 元休満永	江戸時代	
22	^{のうめん あわおとこ} 能面 阿波男		桃山時代	
23	^{のうめん すじあやし} 能面 筋怪士		江戸時代 明和4年（1767）	
24	^{のうめん たか} 能面 鷹	^{いせきいしげ} 井関家重	江戸時代	
25	^{のうめん よりまさ} 能面 頼政	^{ほかんみつなお} 甫閑満猶	江戸時代 享保18年（1733）	
26	^{のうしょうぞく こんじくもからまつもんようかりぎぬ} 能装束 紺地雲唐松文様狩衣		江戸時代 文化9年（1812）	舞を舞う男神役で使用する装束
27	^{のうしょうぞく しるじむもんおおくち} 能装束 白地無文大口		大正～昭和時代	舞を舞う男神役で使用する装束
力を持つ仙人と精霊				
28	^{のうめん いっかく せんじん} 能面 一角仙人	^{どうはくみつたか} 洞白満喬	江戸時代	
29	^{のうめん やまんぼ} 能面 山姥		江戸時代	

※いずれも所蔵は彦根城博物館

作品解説

1 能面 泥眼 是閑吉満作 1面 (作品リストNO. 3)

面長 21.1cm 面幅 13.8cm 面奥 6.7cm

桃山時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

妖気ただよう表情をした若い女の面。目の白目の部分に金泥をさしていることから、この名があります。本来は成仏した女人や童女の面とされましたが、その妖しげな表情から、嫉妬の炎を内に秘めた生霊いきりょうの面として用いるのが一般的になりました。源氏物語を題材とした演目〈葵上〉の前半において、六条御息所ろくじょうのみやすどころが嫉妬しつとと怒りにより鬼女となる前の姿、あるいは〈鉄輪〉前半の離縁された夫を恨み貴船神社に詣でる女の役などで用います。

是閑吉満ぜかんよしみつ(?~1616)は、代々能面制作を家業とした大野出目家の初代。「天下一」を名乗ることを許された桃山時代を代表する名工です。



2 能面 般若 井関家重作 1面 (作品リストNO. 6)

面長 21.1cm 面幅 16.9cm 面奥 9.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

嫉妬による怒りの果てに鬼となった、女の怨霊おんりょうの面。2本の鋭い角、金色に輝く繭型まゆがたの目、大きく開いた口から覗く牙を持つ、恐ろしい相貌です。激しい怒りの形相を示しながらも、眉間を寄せたその表情からは、一抹の悲しみも感じられます。〈葵上〉の後半、鬼女となった六条御息所ろくじょうのみやすどころなどで使用する面です。

作者の井関家重いせきいえしげ(?~1657)は、世襲面打家である近江井関家の4代目。江戸時代初期に活躍した名工で、「天下一」を名乗ることを許されました。



3 のうしょうぞく 能装束 しろ じ しろこもんようすりはく 白地 鱗文様摺箔 1領 (作品リストNO.9)

丈 92.8cm 衿 69.3cm

大正～昭和時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

しろこもんよう 鱗文様と呼ばれる、三角形を繋いだ文様を金箔で表した摺箔。摺箔は、女性の役で用いる装束です。鱗文様は、龍や蛇の身体を覆う鱗を象徴しており、能では、怨念や妄執のために鬼女と化する役の装束に用いられます。般若の面をかけ、上半身に鱗模様の摺箔、下半身には丸紋を表したぬいばく縫箔を腰巻に身につけるのが、鬼女の基本的な出立です。



4 のうめん やせおとこ ちょううんやすよし 能面 瘦男 長雲庸吉作 1面 (作品リストNO.14)

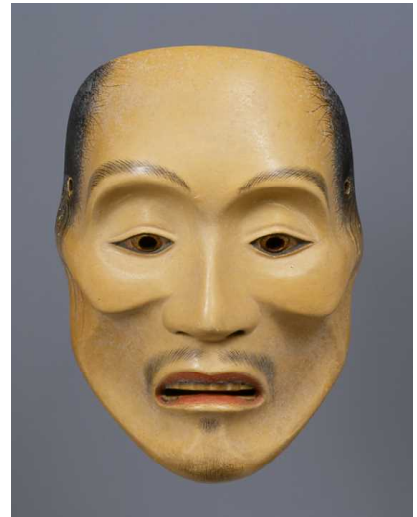
面長 19.1cm 面幅 14.2cm 面奥 8.0cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

殺生禁断の罪により地獄に落ち、この世とあの世の境をさまよう亡霊の面として、うとう〈善知鳥〉やあこぎ〈阿漕〉、うかい〈鵜飼〉などの演目で用います。肉が落ちて頬骨が突出し、目は落ちくぼんで、口元も力がありません。地獄のかしゃく呵責に苦しむしょうすい憔悴しきった相貌です。黒目の周りに嵌められた金輪と、歯に塗られた金泥が、人ではない存在であることを示しています。

作者のちょううんやすよし長雲庸吉 (?～1774) は、おおの で め大野出目家 8代目のめんうち面打。



5 のうめん み かづき げんきゅうみつなが 能面 三日月 元休満永作 1面 (作品リストNO.21)

面長 20.4cm 面幅 14.6cm 面奥 8.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

さつそう 颯爽と舞を舞う若い男神の役で用いる、しんれい神霊の面。しかし、ほお頬のそげた輪郭と、金輪を嵌めた金色に光る鋭い目を持つ、厳しさが際立つ相貌であることから、後に、おんりょう武将の怨霊の面として使われることが一般的になりました。神霊の面としてはたかさご〈高砂〉の住吉明神などで、かねひら武将の亡霊の面としてはいまい かねひら〈兼平〉の今井兼平、ふなべんけい〈船弁慶〉のたいらのとももり平知盛などの役で使用します。

げんきゅうみつなが元休満永 (?～1672) は、えちぜん で め越前出目家 5代目のめんうち面打。

